

# 埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 第44回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

会計部長 松崎 理絵

すっかり梅雨も明け、暑い日々が続いております。巷では2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場の整備計画を再検討する話題で盛り上がっていますよね。新体制のもと新しい整備計画は「秋口の早い時期に(策定)したい」という記事をみつけました。秋口... あきぐち... アキグチ... 学会準備追い込みだ...。

このたび、平成27年12月6日(日)に大宮ソニックシティ小ホールを中心に開催される第44回埼玉県医学検査学会にて会計部長の職を仰せつかりました。学会テーマは、岩田学会長を中心に20名の実行委員皆で言葉の一つ一つに想いを込めて考えた「がんを『識(し)る』」です。「物事の道理を理解し、物事を見分ける」その意とする「識」の字をテーマにあてることで私たちの本学会にかける熱意を皆様にも少しでもお伝えすることができれば本望です。昨年第43回では参加者総数1,259人という盛況のうちに終え、諸先輩方からの素晴らしいバトンを今年度も良い形で受け取り、次年度へ渡していくことを目標に日々準備に取り組んでおります。

今回の『特別講演』には国立がん研究センター研究所 落谷孝広先生をお迎えし、「がん診断の次世代プロジェクト — 1滴の血液でがんがわかる —」マイクロ RNA(miRNA)についてご講演いただくことになりました。また、『市民公開シンポジウム』には、メンタルケアの立場から 丸倉直美先生、ソーシャルケアの立場から賢見卓也先生、メディカルケアの立場から勝俣範之先生をお迎えし、「がんサバイバーシップの始まり」についてご講演いただきます。詳細は、それぞれ学会ホームページに写真や案内ポスターが掲載されていますので、ご覧いただけます。

『一般演題』につきましては、7月上旬に演題募集を無事に締め切ることができました。皆様の積極的な参加あってこそこの学会運営であり、役員一同心より御礼申し上げます。他にも、当日は『クイズ形式企画』『超音波ライブデモ企画』などまだまだオリジナル企画を温めておりますので、是非ご期待くださいね! 「近日公開」

公益社団法人となり埼玉県医学検査学会のあるべき形も、会員十人十色いろいろな考え方があると思います。まずは、本学会を通じて一般市民の方に「臨床検査技師」を知ってもらえるような機会になれば幸いです。12月6日が素晴らしい一日となりますように...。



## 各研究班の研修会報告を致します。

### テーマ 衛生研究所で学ぼう

主催 微生物検査研究班・公衆衛生検査研究班合同研修

実施日時：平成27年 6月13日 13時30分～15時40分

会 場：埼玉県衛生研究所 点数：専門教科－20点

講 演 1：腸内細菌（3類感染症）について

講 師：倉園 貴至（埼玉県衛生研究所）

講 演 2：寄生虫類について

講 師：山本 徳栄（埼玉県衛生研究所）

講 演 3：感染症法改正について

講 師：青木 敦子（埼玉県衛生研究所）

共 催：埼玉県衛生研究所

参加人数：会員28名

出席した研究班班員：

（微生物検査研究班）永野栄子 渡辺典之 佐藤香里 酒井利育 荻野毅史 牧俊一 小西光政  
砂押克彦

（公衆衛生検査研究班）菊地孝司 穴原賢治 富井貴之 榊原外江 鈴木勤 阿保一茂 長崎広美  
研修内容・感想など

移転後の埼玉県衛生研究所での2回目の研修会であった。今回は事情により、従来より続いていた菌株供覧や寄生虫の標本観察が実施できず、代わりにスライドを用いた講義中心の研修であった。講義は、3つのテーマで行われた。

最初の講演は、倉園氏が、腸内細菌（3類感染症）について、県内の検出状況の説明と各種細菌の（コレラ、赤痢菌、チフス菌・パラチフスA菌、腸管出血性大腸菌など）について、コロニー写真や各種培地での生化学的性状の写真を示しながら、検査におけるポイントなどの説明をされた。

次の講演の「寄生虫について」では、山本氏が各種寄生虫について、静止画像だけでなく、動画も使用して説明された。実際に寄生虫が動いている姿は、ほとんど見たことがなく、参加者には印象深い講義となった。研修会終了後も 配布資料を職場に余分に持ち帰りたいという受講者が多かった。

最後は、臨床微生物担当の青木部長の「感染症法の改正について」の講演で、平成26年11月26日に成立した感染症法改正に伴う感染症発生動向調査事業の変更点について、現行の事業説明をされた。その後、感染症法改正の内容、とくに「感染症に関する情報の収集体制の強化」、知事が医療機関等に対し保有する検体を提出すること等を要請できる旨の規定が整備され、検体・病原体提出の要請、収去、措置が行われるようになることの説明があった。検体の提出を求められることの多い医療機関や検査センターと保健所・衛生研究所のより一層の協力態勢が望まれる。

今回、菌株供覧と寄生虫の標本観察がなくなったこともあり、参加者が28名と少なかった。研修の目的である「普段ほとんど遭遇することがないが、決して見落としてはいけない病原体を覚える」ということが、スライドだけで理解できたであろうか。自分の目で確認すること、それも一度のみならず、毎年毎年繰り返してみることも重要である。新人だけでなく、ベテランにとっても必要な研修会であったが、参加者からは実習を望む声が多かったため、今後どのようにすれば有意義な研修になるか、さらなる検討が必要である。

（文責：砂押克彦）

## テーマ 「第3回尿沈渣スライドセミナー」フォトサーベイは大丈夫？ 初心者からベテランまで腕試し！～指しませんのでご安心を～

主催 一般検査研究班

実施日時：平成27年 6月19日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第15集会室 点数：専門教科－20点

講 師：小関 紀之（獨協医科大学越谷病院）

参加人数：会員94名 賛助会員2名

出席した研究班班員：川音勝江 山本英俊 山浦久 深田茂則 竹山梨枝子 土屋貴絵 槇島碧

研修内容・感想など

毎年、サーベイの時期に行われるこの企画も今回で3回目を迎えた。去年に引き続き、100名近くの参加者があり、人気の企画になっている。今年は前年の川音技師に代わり、小関技師に解説をお願いした。

問題は尿沈渣検査法2010に沿って、様々な沈渣成分の写真が出題され、制限時間内に5択から解答を選ぶ形式であった。前回までは制限時間が30秒だったが、今回は1分間だったので、余裕があったのではないかと思われる。選択肢の中には、円柱成分を2つ選ぶ問題の他に、赤血球形態から考えられる疾患を2つ選ぶ新しい形式の問題もあった。集計結果によると、50問のうち平均点は32点、解答者の平均経験年数は3.5年であった。

当日は日臨技サーベイの実施期間中であったため、参考になった方も多かったと思う。今回の研修会で自身の実力を把握し、今後の業務を躍進させる源になることを期待する。

（文責：竹山梨枝子）

## テーマ 血液凝固検査の知っておきたい基礎知識 I （初心者に関立つ基礎知識を中心に）

主催 血液検査研究班

実施日時：平成27年 6月25日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科－20点

講 師：須永 宏行（積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター 学術東日本グループ）

参加人数：会員83名（申請中5名含む）

出席した研究班班員：星孝夫 網野育雄 根岸永和 羽鳥浩司 田中正 橋口恵子 原誠則

圓田和人 岡安幸子 軍司雅代

研修内容・感想など

最初に検査技師も日頃採血の現場に携わっているため、「検査の始まりは採血にある」という基本に立ち返って、採血管を取り扱うための注意点についての説明があった。アームダウンが望ましいとされるホルダーを用いての真空管採血から、シリンジ採血や翼状針を使用するケースが増えている理由についての採血方法別に利点と欠点などを採血管の取り扱いも含めての解説があった。

次に凝固検査は室温放置（温度上昇）とともに検査値も上昇するとのいわば常識化したものがあつたが、「PTを保存する場合はコールドアクチベーションを考慮する必要あり。」とのことで、スタンダード検査血液学の改訂版（第3版）では遠心条件が従来の4℃から室温に変わっていることが紹介された。また、凝固の基礎知識では毎回解説されるPT試薬のヘパリン中和剤については、自施設で用いている試薬の説明書を今一度見直し把握しておく必要があり、ヘパリンの影響の有無を確認する必要があることが再度示された。

日当直などの緊急の現場でも異常値やパニック値に遭遇の可能性があるので、臨床からの問い合わせに対応できるように、何が考えられるか確認しておくことは重要なことであると、今

回の研修会で痛感した。また、FDPのパニック値は入院(60 $\mu$ g/ml)と外来(30 $\mu$ g/ml)に分けて設定することが推奨されるなど、マニュアルの改善・見直しにつながる内容も多々あった。

苦手な人にとっては何度聞いても難解な分野である凝固のメカニズム～新規経口抗凝固薬の基礎知識まで、噛み砕いて丁寧に解説いただいた。専門用語の解説から始まり、解明されるたびに煩雑化する凝固反応については、初心者には嬉しい“簡略化した模式図”を用いての解説で理解し易かったと思う。初心者のみならず、担当者にとっても再確認すべきことが多々あり、大変参考になった。(文責：橋口恵子)

## テーマ 採血管と薬物検査の注意点について学びましょう 採血管の取扱いによる臨床検査値への影響とTDMの基礎について

主催 血清検査研究班

実施日時：平成27年6月26日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 905号室 点数：専門教科－20点

講師：市原 文雄(積水メディカル株式会社)

参加人数：会員30名 賛助会員2名

出席した研究班班員：齊藤雅一 佐野悦子 相坂由里子 大島まり子 鈴木淳子 持田和紀

研修内容・感想など

前回、臨床化学検査研究班と合同で開催した研修会が大変好評であったため、再び採血管と薬物検査について講演していただいた。

前半は真空採血管の構造から取扱い、採血手技の基本まで幅広い内容であった。特に興味深かったのは、多血症患者の凝固検体の取扱いである。ヘマトクリット値が55%を超える場合は、血漿の割合が少なくなり、クエン酸ナトリウムが過剰な状態となるので補正が必要になるとのことであった。また、外来採血では時間に追われることが多く、採血手技や検体取扱いによる検査値への影響を常に考えて採血するのは難しい面がある。しかしながら、より良い検査データを提供するためには、定期的に手技を確認しなくてはならないことの説明があった。

後半はTDMの基礎についての講演であり、普段なかなかTDMについて学ぶ機会がないので大変参考になった。臨床から薬物濃度の追加検査依頼がある場合、種類によっては血清分離剤に吸着されてしまう可能性があるが、その頻度は試薬メーカーにより異なるため、しっかりと確認して使用するか、又はプレーン採血管での検体を用いたほうが良いとのことであった。

最後に、検査の始まりは採血であると言われるように、今回のような研修会でしっかりとした知識と技術を身に付けていただきたいと思います。

(文責：持田和紀)

## テーマ 輸血検査実技研修会

午前コース：初級者のための実技研修会 血液型・不規則抗体検査

午後コース：中級者のための実技研修会 血液型・抗体解離試験

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成27年7月5日 9時00分～17時00分

会場：埼玉県済生会栗橋病院 5階講堂 点数：専門教科－20点

講師：輸血検査研究班員

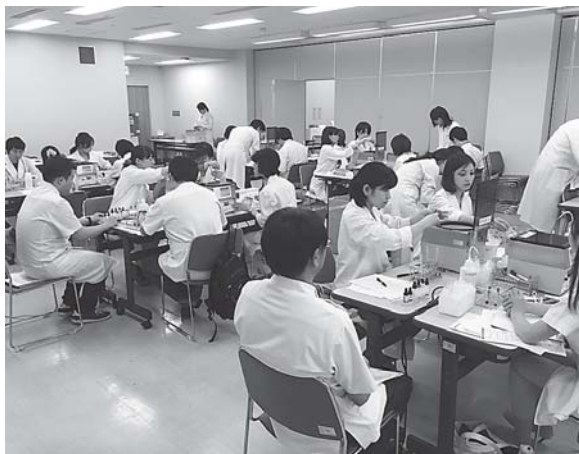
参加人数：会員55名 非会員1名

出席した研究班班員：渡邊一儀 山田攻 武関雄二 今井厚子 佐藤祥子 神戸孝裕 長谷川卓也



## 研修内容・感想など

今年度の実技研修会は午前コースと午後コースに分けて実施した。午前コースは初級者を対象として血液型と不規則抗体検査を、午後コースでは中級者を対象として血液型と抗体解離試験を内容とした。午前コースの血液型検査では正しい手技と反応態度の捉え方など、結果の解釈について確認をしながら実施した。不規則抗体検査については手技に加えて消去法から疑わ



しい抗体を導き出せるように指導した。消去法は、まだ不慣れな部分も見られたが、理解された様子であった。

午後コースでは血液型検査では正しい手技の確認はもちろんのこと、異常反応を正しく捉えて、その対応について指導した。抗体解離試験については、今回から初めて酸解離を導入した。認定輸血技師の実技試験でも昨年からの酸解離が行なわれているため、多くの受講者が高い関心を持っていた。積極的な質問やグループ内でのディスカッションも行われ有意義な研修会であったと考えられる。輸血検査において日常

検査では自動化が導入されつつも手法検査の手技獲得は必須である。今後も最新の情報を取り入れつつ、安全な輸血療法につながるよう実技研修会を企画しようと思う。

(文責：渡邊一儀)

## テーマ 知って得する 5 S 活動の進め方！ ～具体的な事例をしめしながら～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成27年 7月10日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：基礎教科－20点

講 師：霜島 正浩 (株式会社ビー・エム・エル 検査本部)

参加人数：会員38名 賛助会員1名

出席した研究班班員：菊地孝司 穴原賢治 富井貴之 阿保一茂 榊原外江 長崎宏美  
立塚梓 鈴木勤

## 研修内容・感想など

今回の研修会は、「知って得する 5 S 活動の進め方！」と題して 5 S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) について整理収納アドバイザーの資格を有する霜島氏に講演していただいた。講演内容は I. 整理収納アドバイザーの資格説明、II. 病院業務での 5 S 活動の必要性、III. 院内感染、IV. ビー・エム・エルでの取り組みについてであった。

I. 整理収納アドバイザーの資格説明では、モノと人の関係を Active 領域・Standby 領域・Property 領域・Scrap 領域の 4 つに分けて、現時点で自分達がどの領域にいるのかを把握することの大切さの説明があった。

II. 病院業務での 5 S 活動の必要性では、5 S 活動に取り組むことで患者の転倒、病原体による感染症を防ぐことにつながる。加えて、心が不安定な状態にあると仕事の乱れにつながり、結果としてミスやアクシデントに発展してしまう等、日常においても身に覚えがあり、ドキッと反省をさせられる内容であった。また 5 S 活動は ISO、病院機能評価の取得、更新においても重要な位置にある事を解説していただいた。

III. 院内感染では、霜島先生の得意分野である細菌感染症の観点から Standard precaution (標

準予防策)と5S活動の関係性や、今話題になっている薬剤耐性菌の紹介にわたるまで、院内感染の実例を示しながら説明をしていただいた。

IV. ビー・エム・エルでの取り組みについては、自施設で行われている5S内閣制度を実例として挙げていただき、5S活動は職場の全員で遊び心を持ちながら継続できる内容で取り組むことが重要であると実感した。

5S活動はボランティア的要素が強く、疎まられるところがある。だからこそ、無理のない継続できる目標を設定し、リーダーを定め、皆で取り組んで行くことが大切である。この活動は病院業務を行う上であらゆる方面に関係性があり、しっかりと評価されなければならない大切な活動であると思われた。  
(文責：鈴木勤)

## テーマ 電子顕微鏡と蛍光抗体の依頼に対応する方法 ～ 検査担当へ送るまでに必要なコト～

主催 病理検査研究班

実施日時：平成27年 7月10日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室 点数：専門教科ー20点

講 演 1：蛍光抗体 検体提出までのポイント

講 師：荻 真里子 (北里大学メディカルセンター 病理部)

講 演 2：電子顕微鏡 検体提出に関するQ&A

講 師：渡邊 孝平 (ピーシーエルジャパン特殊検査部電子顕微鏡課)

参加人数：会員37名 賛助会員3名

出席した研究班班員：渡邊俊宏 岡村卓哉 森田繁 荻真里子 金泉恵美子  
三鍋慎也 細沼佑介 関口久男 高橋俊介 沼上秀博

研修内容・感想など

電子顕微鏡や蛍光抗体法の検査は、腎臓病診断での有用性が高い半面、技術的・経済的な理由から院内での実施が難しい施設も多い。このような場合は外部委託にて検査を実施するが、依頼が少ないことから、提出方法などで往々に困惑してしまうことが多いと思われる。今回はそんな不安を解消すべく、2名の講師に基礎的な方法論を含め、適切な検体の取り扱いについて講演していただいた。

両検査は、極めて微細な構造の観察や、微量な蛋白を検出する方法であり、些細な部分が標本の成否にかかわりかねない。しかし、依頼側としてはどんなところに注意をおかねばならないか、考えがおよぼないことも時々ある。本研修会を受講し、検査の全体像が浮かびあがり、日頃は検査をお願いする(しかない) 私たちも「何が大切なのか。何をしてはいけないのか」を理解することができた。

(文責：沼上秀博)

## 埼臨技ひろば

# TEAM SMT 44 始動…!

日本人の2人に1人はがんになり、その1/3はがんで亡くなる時代。今、がんと向かい合うことは私たち臨床検査技師としては必然ともいえる状況です。

来る9月12日(土) 13日(日)、浦和の大崎公園でリレー・フォー・ライフ・さいたま2015 (RFL) という患者さんを支援するボランティアイベントが開催されます。このイベントに第44回学会の市民公開シンポジウム「がんと言われた日に」の宣伝を兼ねて、実行委員会を中心とした埼臨技未公認の有志チームで参加することになりました。チーム名の「TEAM SMT 44」は、そんなことはないと思いますが、学会長が「AKB48のこじはるファンだから・・・」とか？

RFLのイメージをお伝えすると運動会与学園祭を一緒にしたような感じでしょうか。主なイベントはチームで一丸となってタスキをつなぎ、がん患者さんの苦しみを分かち合おうという24時間ウォーキング(のんびりウォーク)ですが、ステージでは各種イベントが催され、(去年はアグネス・チャンのライブもありました。)また各テントでは参加チームがそれぞれ工夫をした出し物やバザーを行っています。夜には燈火の点灯で亡くなった方を悼むイベントもあります。私たちも啓発テントを借りて「検診の大切さ」や「検査データの見方」などを、臨床検査技師として市民や患者の皆さんに啓発できたらいいかなと考えています。

参加に資格はありません。参加費1,000円から経費を除いた分が寄付に充てられ、それらが患者支援とがん研究支援に回されます。1時間でも2時間でもかまいません。運動会に参加するような気軽な気持ちで一緒にのんびり歩きますか？

「私たちは患者さんの良きサポーターとして、共に歩む、顔の見える臨床検査技師を目指しています。お気軽に声をかけてください。」  
(チーム紹介文より)

連絡先：県立がんセンター検査技術部 蔵光まで (k-hiroyuki@cancer-c.pref.saitama.jp)

参 考：RFLさいたまのウェブ (<http://saitamarfl.web.fc2.com/>)

(文責：岩田敏弘)



昨年のRFLより(昨年度参加のがんセンター 検査技術部チーム)



平成27年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第4回 理事会議事録

日 時：平成27年7月9日（木）19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)津田 神山 島村 岡田 矢作  
小山 奈良 長岡 伊藤 猪浦  
松岡 小島 濱本 藤井 長澤  
鳥山 武関 野瀬  
(監事)遠藤

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は18名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成27年6月11日～平成27年7月8日)

6月11日(木)平成27年度公益社団法人第3回理事会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、  
小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、  
松岡、小島、濱本、藤井、長澤、  
神嶋、武関、野瀬、遠藤、細谷

6月19日(金)第44回第8回埼玉県医学検査学会  
実行委員会：岡田、長岡

6月19日(金)国税、県税、市民税納付証明書発  
行手続き：小山

6月20日(土)関甲信支部幹事会：神山、津田、  
岡田

6月20日(土)一都八県会長会議：津田、神山、  
岡田

6月23日(火)第1回総務部会議：

奈良、猪浦、長岡、伊藤

6月23日(火)深谷市福祉健康まつり第1回実行  
委員会：濱本

6月25日(木)蕨市民健康まつり第1回実行委員  
会：濱本

6月25日(木)法務局へ登記申請手続き：矢作

6月25日(木)第1回理事・研究班学術合同会議：  
津田、神山、島村、岡田、矢作、  
小山、松岡、小島、山口、鳥山、  
武関

6月25日(木)第2回表彰審査選考委員会：

津田、神山、島村、岡田、矢作

7月2日(木)第1回埼玉県医師会精度管理委員会：  
津田、神山、岡田、山口、野瀬、  
猪浦

7月4日(土)一都二県臨床化学合同研修会挨拶：

神山

7月8日(水)第44回埼玉県医学検査学会学術部  
会議：岡田、山口

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 1) 6月25日、法務局へ登記申請手続きを行っ  
た。
- 2) 6月25日、第2回表彰審査選考委員会を開  
催した。
- 3) 6月29日、公益法人インフォメーションに  
て平成26年度事業報告を県へ提出した。
- 4) 7月4日、一都二県臨床化学合同研修会が  
東京都立墨東病院にて当県の担当にて開催  
され、神山副会長が津田会長の代理として  
挨拶を行った。
- 5) 日臨技より「災害時対応体制の実態調査」  
への協力依頼があり回答をした。
- 6) 埼玉県糖尿病協会より「第51回全国糖尿病  
週間行事」の後援依頼があり、後援の回答  
をした。
- 7) 平成27年度埼臨技事務所の夏季休暇期間を  
8月10日(月)から14日(金)の期間とした。

2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第434号、7月15日発行予定
- 2) 6月23日、第1回総務部会議を開催した。

3 事業部

- 1) 6月23日、深谷市福祉健康まつり実行委員  
会に出席した。
- 2) 6月25日、蕨市民健康まつり実行委員会へ  
出席した。
- 3) 深谷市福祉健康まつり及び全国 検査と健  
康展(蕨市民健康まつり内)の当日スタッ  
フの募集を開始した。
- 4) 新入会員向け研修会について、11月5日  
(木)大宮ソニックシティ906号室にて学術  
部と協力して開催予定。

4 学術部

- 1) 第1回理事・研究班学術会議を開催した。
- 2) 第44回埼玉県医学検査学会学術部会議出  
席の要請があった。
- 3) 研究班専用PCについて各研究班への調査  
を実施中。
- 4) 平成27年度埼臨技会誌第62巻1号(Vol.62  
No.1 2015)、7月15日発行予定
- 5) 長野県技師会より平成27年度関甲信支部医  
学検査学会座長候補の推薦依頼があった。

5 精度保証部

- 1) 特になし

6 会計部

- 1) 平成27年度正会員費53名分265,000円、入  
会金53名分53,000円、合計318,000円の入  
金があった。
- 2) 生涯教育推進研修会助成金4研修会分  
(50,000円×2、47,000円、45,000円)、

合計192,000円の入金があった。

- 3) だより第433号印刷代162,302円、封筒2種類72,360円を石井印刷に支払った。
- 4) 記念誌製本費20,520円、雑誌合本費7,560円を関東図書株式会社に支払った。
- 5) 第1回理事・研究班合同会議議事録
- 7 精度管理委員会
  - 1) 7月2日、第1回埼玉県医師会精度管理委員会を開催した。
- 8 一都八県会長会議
  - 1) 6月20日、都臨技事務所にて一都八県会長会議が開催された。
- 9 日臨技関甲信支部
  - 1) 6月20日、都臨技事務所にて関甲信支部幹事会が開催された。
- 10 日臨技
  - 1) 特になし
- 11 第44回埼玉県医学検査学会
  - 1) 6月19日、第8回実行委員会を開催した。

Ⅲ. 承認事項

- 1 事務局
  - 1) 会員動向（会費納入済）(平成27年度分)

平成27年 7月 1日現在

- 会員数 2,538名  
(新入会員 155名[平成26年度会員数2,441名])  
賛助会員 57社[平成26年度 79社]
- 2 総務部
  - 1) 会員名簿のCDレーベルについて
- 3 事業部
  - 1) 特になし
- 4 学術部
  - 1) 埼臨技会誌論文投稿規定改定案について  
埼臨技会誌投稿規定に論文の倫理、利益相反について追加記載することとした。
- 5 精度保証部
  - 1) 特になし
- 6 会計部
  - 1) 研究班用PCの購入について
  - 2) 埼臨技事務員の夏季賞与について
- IV. 議題
  - 1) 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

# 求人案内

○医療法人 地塩会 大宮レディスクリニック  
 採用条件：正職員  
 連絡先：048-648-1657 内線10  
 事務長 出居勝儀

○川口パークタワークリニック  
 採用条件：正職員 臨時職員(パート)  
 連絡先：048-255-7222  
 事務局長 竹元豊志

○医療法人 新青会 川口工業総合病院  
 採用条件：正職員  
 連絡先：048-252-4873  
 総務課 人事担当 石亀直昭

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

# あ と が き

今年度より会員名簿を経費削減のためPDFファイル化し、CDにて配布することになりました。また、個人宛てにお送りしておりましたが、各施設1枚とさせていただきます。今まで名簿廃棄に苦勞されていたと思いますが、これによりその手間の軽減ができたと思います。

今回の名簿はPDFファイルなので検索機能が付いています。これは使いようによくと便利な機能だと思います。ある会員を検索すると12か所ヒットしました。たぶん最多ヒットです。誰でしょうか？

パソコン、スマートフォンなど身の周りがどんどんデジタル化されていきます。子供たちはこのデジタル化の波を楽しんでいますが、50手前の私は乗り遅れないよう四苦八苦している今日この頃であります。頑張れアラ50！

(猪浦 記)

